

令和5年度和歌山県学習到達度調査(中学校)12月調査結果概要

1 調査の概要

(1) 調査日 令和5年12月7日(木)

(2) 調査の目的

県内の中学校における生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における生徒への学習指導の改善・充実に役立てる。

(3) 調査内容

調査を実施した学校、生徒、教科

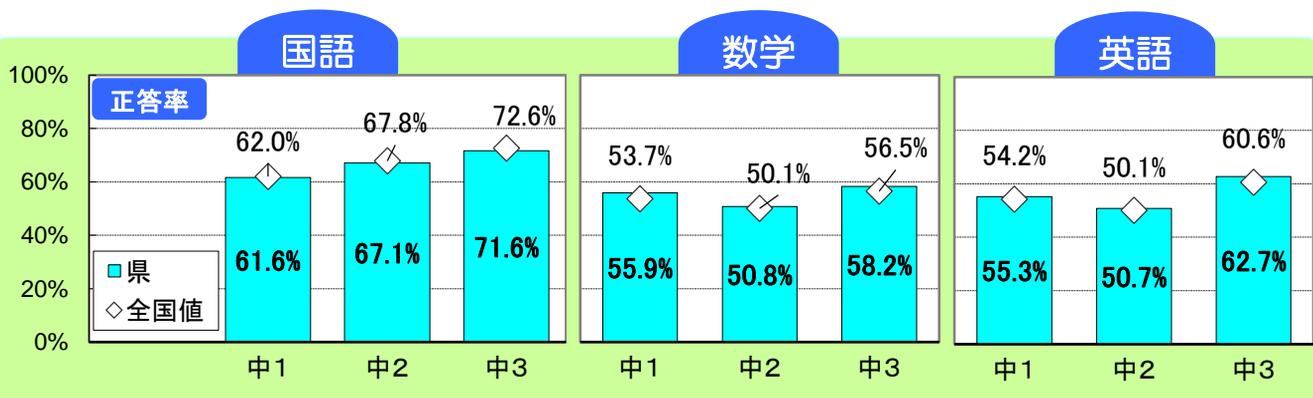
公立の中学校第1・2・3学年、義務教育学校後期課程第1・2・3学年、特別支援学校中学部第1・2・3学年

学年	学校数	生徒数	実施教科
中学校第1学年	118校	5864人	国語 数学 英語
中学校第2学年	116校	5906人	
中学校第3学年	116校	6167人	

2 結果の概要

【平均正答率】

	国語			数学			英語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
県	61.6	67.1	71.6	55.9	50.8	58.2	55.3	50.7	62.7
全国	62.0	67.8	72.6	53.7	50.1	56.5	54.2	50.1	60.6
差	-0.4	-0.7	-1.0	+2.2	+0.7	+1.7	+1.1	+0.6	+2.1



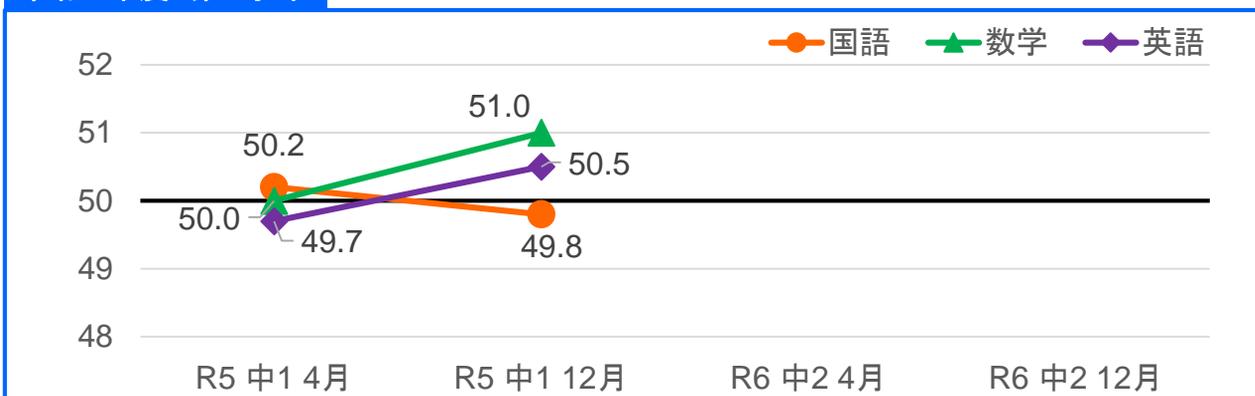
【標準スコア】 全国の平均正答率を50としたときの換算値

	国語			数学			英語		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
R4 4月	49.2	49.2		50.5	50.6		50.9	49.8	50.0
R4 12月	50.1	48.4	49.0	51.8	50.2	50.4	51.9	50.0	51.4
R5 4月	50.2	49.1		50.0	49.5		49.7	49.7	
R5 12月	49.8↓	49.6↑	49.5↑	51.0↑	50.3↑	50.7↑	50.5↑	50.3↑	50.8↑

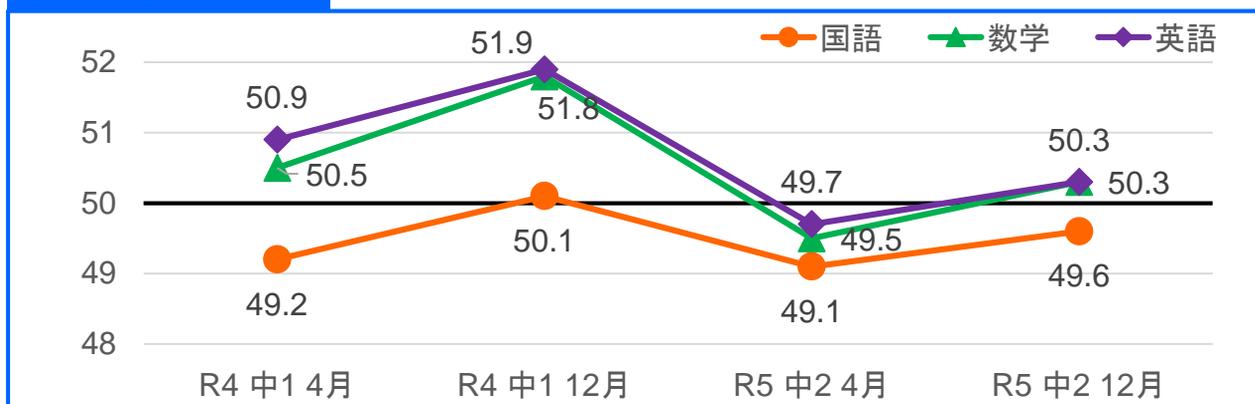
※ ↑↓ は、標準スコアのR5年度4月調査からの変動を表しています。第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語・数学・英語の調査を実施したため、R4年度12月調査第2学年の標準スコアからの変動を表しています。

【同一集団における標準スコアの推移】

令和5年度 第1学年

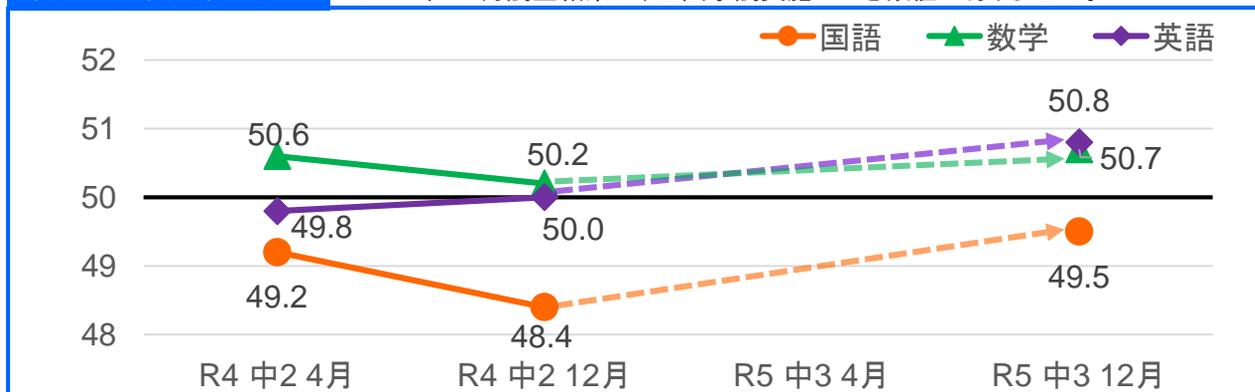


令和5年度 第2学年



令和5年度 第3学年

※R5 中3 4月調査結果は、全国学調実施につき数値はありません。



3 各教科の成果と課題(国語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	51.1	43.1	+8.0

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(3)	歴史的仮名遣いについて理解している。	32.6	25.4	+7.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(2)	情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。	44.6	45.2	-0.6

文章の内容を捉えて、それを整理することができるかを見る問題である。設問に挙げられたまとめの整理の仕方について理解した上で、まとめと文章の内容を比較しながら読んでいけば、適切な言葉を抜き出すことができる。説明的な文章を読む際に、要点を分かりやすく整理する力は、さまざまな学習や社会生活の中でも生かすことができる。他教科の整理の仕方なども参考にして、分かりやすい整理ということを意識させることが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	読み取った内容を明確にして書いている。	48.5	51.8	-3.3

第一段落には、「AとBのポスターの特徴」をそれぞれ書く。本問で大切なことは、文章全体を一つのまとまりとして、適切な論の展開ができるかということである。すなわち、第二段落で「AとBのどちらのポスターのほうがよいと思うか、自分の考えと、その理由」を書かなければならないことを踏まえて、書き出す前に、第二段落の内容につながるような特徴を挙げておく必要があることに気付かせたい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	58.7	53.8	+4.9

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(3) ②	歴史的仮名遣いについて理解している。	60.3	55.6	+4.7

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(2)	文章の表現の効果について考えている。	65.0	69.1	-4.1

文章の表現にどのような効果があるかを考える問題である。文学作品では、表現の仕方が、作品の評価に大きく関わる。読み手としては、ストーリーだけを追うのではなく、表現についても味わうことで、自分の表現を豊かにすることにつながる。授業の中で特徴的な描写に着目させることに加え、作品を支えている表現について検討させるような工夫をすることにより、そうした表現に着目させ、作品に対するクリティカルな読みの力を付けさせたい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	読み取った内容を明確にして書いている。	44.0	45.4	-1.4

本問は、グラフから読み取ったことを、数値を挙げて書く問題であるが、数値を使うことで、具体的な事柄について述べるができる。こうした情報処理に関する言語能力の向上は、学習指導要領におけるPISA型「読解力」の育成にも見られるように、重要課題の一つになっている。さまざまなテキストを読む力や、非連続型テキストを効果的に使用して文章を書く力を育成するため、情報を読み取り、それを基に自分の考えを表現する学習について工夫していきたい。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ①	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	78.9	75.0	+3.9

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8	自分の考えの理由を明確にして書いている。	77.5	76.4	+1.1

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(3)	古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。	45.0	48.4	-3.4

歴史的仮名遣いで書かれている古文に対して抵抗感が大きい生徒は、現代語訳があっても、それと対照しながら読むことがうまくできない場合がある。少しでも古文に親しませていくことを考えていきたい。なお、学習指導要領では、伝統的な言語文化に関する指導が重視されているため、以前は中学校で扱っていた作品を、小学校において学習する場合もある。そうした点も考慮し、中学校では更に幅広く古典に親しめるような教材を取り上げていくように心がけたい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(3)	互いの発言を生かしながら話し合い、合意形成に向けて考えを深めている。	23.0	28.2	-5.2

関口さんは、予定が書け、次の月が載っているカレンダーがよいとしており、アは、予定は書けるが、5月になると次の月の6月が見えない。これは条件1と2から考えたものであるが、「条件」はヒントや考えるためのステップになっていることを理解させたい。なお、企画を作り上げる過程には、さまざまな問題があり、それを解決するために、全員の考えをまとめながら合意形成することが求められる。そうした合意形成に向けての話し合いの意義や方法について、実際の話し合いを通して指導していくとよい。

3 各教科の成果と課題(数学)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
4(1)	正負の数の減法ができる。	80.0	72.2	+7.8

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
12	具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、もっとも重さが軽いぎを表したグラフを選ぶことができる。	68.2	62.0	+6.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1)	文字式の表し方を理解している。	14.9	17.8	-2.9

文字式の表し方について、乗法では \times を省くこと、数を文字の前に書くこと、累乗の指数を使って表すこと、除法では、 \div を使わず分数の形で表すこと等を確認する必要がある。さらに、1を省略すること、 $a \times (-2)$ は、 $(-2)a$ ではなく $-2a$ とすること、 $(a+3) \div 4$ は $(a+3)/4$ ではなく、 $a+3/4$ のように括弧を付けずに表すこと、和と差の記号(+、-)は省けないことなどに注意させ、理解を定着させたい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
17(2)	事象を数学的に解釈し、合計の個数の、1個の重さの違いによる差を数学的に説明することができる。	11.2	12.4	-1.2

誤答の原因として、比例のグラフを読み取るができないこと、説明することに習熟していないことなどが考えられる。ペットボトルキャップの重さが15000gのときの個数の差はグラフのどこに表れているのか、図の中に印を付けさせ、個数の差は y の値の差であることに気付かせる。そして、その流れを記述すればよいことを理解させる。普段の指導の中に、説明する場面を多く取り入れ、説明することに慣れさせることが大切である。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(2)	一次関数の関係を表す式から、 x と y の値を示した表を選ぶことができる。	52.0	44.9	+7.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
13(2)	多角形の外角の和について理解し、角の大きさを求めることができる。	62.3	55.1	+7.2

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
14	証明の必要性和意味を理解し、正しい説明を選ぶことができる。	65.8	72.8	-7.0

誤答の原因として、2つの図の見た目が変わったため、条件も異なると捉えていることが考えられる。2つの図における仮定に着目させ、仮定が変わっていないため、同じ結論を導くことができることに気付かせたい。また、証明においては、例題と類題・応用題において仮定や結論がどう変わったかについて、生徒自身に確認させることが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
17(3)	何か月使うとLED電球の方がお得かの求め方を説明することができる。	11.6	13.8	-2.2

前問(2)のグラフに着目させ、LED電球と電球型蛍光灯の使用月数とかかる費用の関係を一次関数のグラフに表し、2つのグラフの交点の x 座標を読み取ればよいことを理解させたい。実際に、(2)のグラフにLED電球のグラフをかき加え、月数を求めさせると、より理解を深めることができる。さらに、連立方程式をつくり求める方法について触れることで、考え方の幅を広めることも大切である。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
15(2)	相似な図形の性質から、辺の長さを求めることができる。	55.6	49.5	+6.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
20(2)	制動距離についての関数 $y=ax^2$ の式を求めることができる。	34.3	25.8	+8.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2)	おきかえを使って、因数分解をすることができる。	25.1	26.8	-1.7

誤答の原因として、因数分解の公式を覚えていないこと、共通部分を1つの文字で置き換えることに習熟していないこと等が考えられる。 $x-4y$ を A と置くと、 $A^2-12A+36$ となり、因数分解の公式が使えることに気付かせたい。その際、置き換えた文字は、必ず元の式に戻すことを忘れないように注意を促す。因数分解は、二次方程式の解法としても利用されるので、繰り返し指導の中で習熟させる必要がある。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
10	$y=ax^2$ の a の値とグラフの形の関係について正しいグラフを選ぶことができる。	38.7	40.2	-1.5

$y=ax^2$ のグラフについて、(i)原点を通る (ii) y 軸について対称な曲線である (iii) $a>0$ のときは上に開いた形、 $a<0$ のときは下に開いた形になる (iv) a の値の絶対値が大きいくほど、グラフの開き方は小さくなるなどの特徴を確認させる必要がある。本問では、選択肢③、④のグラフは $a<0$ であり、④のグラフのほうが開き方が小さいことから、④のグラフの a の値が最も小さいことを理解させるとよい。

3 各教科の成果と課題(英語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(2) ①	英文の情報を読み取り、その内容を理解している。	85.1	80.5	+4.6

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8(3)	文の語順を理解し、正確に書いている。(Whatの疑問文)	50.1	37.7	+12.4

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2)	対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に回答している。(公園で何をするかをたずねられて)	43.6	48.0	-4.4

誤答の主な原因としては、疑問詞Whatが聞き取れなかったことが考えられる。疑問詞については、日常の授業の中で、直接生徒とのQ&Aなどを通して指導することが望ましい。例えば、授業のさまざまな場面において、“What do you do on weekends?” “Where do you want to go?” などと生徒に質問を投げかけることによって、何を尋ねられているのかを理解できるようにさせたい。また、これらの表現は、ペアワークでも使用できる。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(4)	メールから必要な情報を読み取り、その内容をふまえて返信している。	12.0	19.2	-7.2

まとまりのある文章から必要な情報を読み取る力を習得させるには、授業において、相手に情報を伝える手段である広告やインフレット、メール文等から、自分が必要とする情報を読み取る活動を行うことが効果的である。その際には、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断し、必要な情報と不要な情報を整理しながら読み取ることが重要である。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(1) ①	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(疑問詞where)	78.7	74.5	+4.2

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
9(2)	文の語順を理解し、正確に書いている。(接続詞ifの文)	53.5	35.9	+17.6

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(1)	対話を聞き、その意味を理解して適切に回答している。(相手の週末の予定を聞いて)	45.5	60.6	-15.1

本問のような問題に対応する力を習得させるためには、あるテーマについて即興で事実や意見、感情等を伝え合いながら会話を継続・発展させる活動を行うことが考えられる。会話を継続・発展させるためには、ペアワークでのやり取りの中で、相手の質問に答えるだけでなく、相手に聞き返したり、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする等、表現の幅を広げる必要がある。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(1)	英文を読み、概要を捉えて適切なスライドを選んでいる	23.9	28.3	-4.4

本問のような問題に対応する力を習得させるためには、読む目的を把握させた上で文章を読み、各段落の主な内容を捉えさせるといったことが考えられる。その際に、主な内容を表す英文と、その具体的な情報を表す英文を区別しながら読むように指導することが大切である。また、こういった活動では、教科書に書き込んだり、1人1台端末の書き込み機能を活用したりすると効果的である。

第3学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(1) ②	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(現在完了進行形)	50.1	46.7	+3.4

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
11	してみたいボランティア活動について、その理由や具体的に説明する英文を、相手に伝えるように書いている。	64.5	50.0	+14.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(3)	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に回答している。(品物をすすめられて)	48.1	49.2	-1.1

本問では、対話文が買い物の状況であることに気付くことが必要である。“May I help you?” “How about~?”といった表現を身に付けさせておきたい。買物のような特有の表現がよく使われる場面については、小学校の外国語科でも扱っている場合があるため、小学校で使用した表現を把握して繰り返し使用させたり、状況等の設定を変えて言語活動を行うことにより、表現に広がりを持たせたりすることが大切である。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8(4)	長文を読み、その概要を捉えてメールを書いている。	54.4	58.0	-3.6

本問のような問題に対応する力を習得させるためには、教科書の本文内容に対する自分の意見を書かせるなどの言語活動を行わせることが考えられる。その際、生徒の書いた文章について、文法事項や単語の綴りを指導するだけではなく、「説得力のある理由を簡潔にまとめられているか」といった表現内容の適切さという点からも確認することが大切である。